

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着を念頭に地域住民の方との交流を心がけています。(医療連携や買物、小学生との交流等)		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニット、事務所に掲示。拠点会議において、学ぶ機会を設け理念を共有しています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	当事業所では地域連携を掲げ、密接した関係作り(散歩時の挨拶や地域住民の方の行事のお願いを依頼し、地域から理解して頂けるよう取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣に喫茶店があり、頻度的にはまだ少ないですが、ご入居者様とスタッフでお茶を飲みに行ったりしています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	オープンから2~3ヶ月の間隔で近隣のボランティアの方に来ていただき昭和時代の踊りや歌等をご披露して下さいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6</p> <p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>他施設と入居者や職員との交流を検討しています。その中でケアサービスの方法を行っていきたく考えています。</p>		
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7</p> <p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を行い、勉強が足りない部分については年間の研修計画に盛り込み、着手しています。</p>	○	<p>毎月の会議時に担当職員が資料を作成したり説明したり、今後入居者にとって様々なリスクが予想されてくるのでそういったことを踏まえ会議時の勉強会にあてていきたく考えています。</p>
<p>8</p> <p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議のメンバー(入居者とご家族、協力病院、区職員、地域住民)の意見をもとによりよいサービスを提供するように努めています。年1回の健康診断実施や口腔ケアの徹底、行事の立案等の意見が出たのでサービスの向上に活かしています。</p>		
<p>9</p> <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>機会があるごとに市・区役所訪問しています。サービスの向上を図る為、また情報収集を得ています。運営推進会議に出席して頂いているので、理解を得られるように情報交換を行っています。</p>		
<p>10</p> <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護や成年後見制度についての相談も無い為、スタッフ間で勉強会等で学ぶ機会をしていないのが実情です。</p>	○	<p>今後は、拠点会議を使って勉強したいと思います。</p>
<p>11</p> <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>連絡ファイルにスタッフが閲覧できるようにしています。施設内で虐待が起こらないよう周知徹底をしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に初回面談をご家族、ご本人様と行います。また、初回面談後、入居契約時にも不安な点や疑問点に答えられるように努めています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>市役所・国保連を窓口としています。苦情・相談については内部窓口を契約書に記載し、外部窓口は掲示しています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>電話連絡や面会に来られた際に近況報告しています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>市役所・国保連を窓口としています。苦情・相談については内部窓口を契約書に記載し、外部窓口は各ユニットに掲示しています。また意見を頂いた場合は相談記録に記載し、事務所内または拠点会議を使ってスタッフに啓蒙しています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>拠点会議やミーティング等で意見や提案を聞く機会を設けています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の活動時間に合わせた、生活時間を設定しシフトを組んでいます。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>突然の異動や離職がないように本部との連携を行っています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>拠点会議にて、勉強会を行っています。弊社本部にて研修も行っているため、本部での研修会にも参加するように働きかけを行っています。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>相互訪問を行い、情報交換を行っています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフ間で業務上疑問が生じた場合は、随時管理者やケアマネージャーが相談に応じています。また、全体的な問題が生じた場合は営業所内での会議で話し合いを行っています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>随時管理者とスタッフで会話する時間を設け、管理者からアドバイスをしたり逆にスタッフから問題提起を受けたりと相互でコミュニケーションを図るよう心がけています。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の初回面談を通じて本人のニーズを聞いています。また、入居後、環境が変わってのダメージを最小限に抑えるよう、積極的にコミュニケーションを図り孤独感の無いよう努めています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回面談時や利用契約時に不安な点等を聞く機会を設けております。それをもとに、ケアプランに落とし込んでいます。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適時、本人を含めカンファレンスを実施して、適切なアドバイスを行ったり、他のサービスの利用も検討し対応を行ってま す。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後しばらくは出来る限りご家族様には足を運んで頂くようお願いし、リロケーションダメージを防ぐように対応して います。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフの導線の中で会話の時間を設けています。また、会 話の中で出た意見を大切にし、ユニット内や事務所に報告 し、ご本人様がより快適にお過ごしになれるように工夫しなじ みの関係を構築できるよう対応しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	家庭的なグループホームを共有し、ご家族様からのご指導を 頂いたりして、入居者本人が穏やかに快適に過ごして頂ける ようにコミュニケーションを図っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	スタッフは面会等で近況報告を行うように徹底し、よりよい関 係の構築が出来るようサポートしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	外出、外泊は原則自由となっており、(事前連絡は必要)ご 家族様や入居前に馴染みのあった方との関係が途切れない よう、ご家族様にも協力して頂き支援しています。正月やお 盆といった際には、面会時や手紙を郵送し外泊されるかの有 無を聞いています。年末年始にかけ半分以上の方がご自宅 やご家族宅へ外泊されています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るよう努めている	入居初期の段階でご家族様に面会に来て頂いたり、また、 他の入居者と関わりが持てるように余暇活動を行い、他の入 居者の方ともより良い関係が構築できるように努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現時点では対象となる方がおりません。	○	今後、対象となる方がいた場合は、継続的に関わりが持てるように支援していききたいと思います。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から出る希望や意向をヒアリングし、管理者や計画作成担当を中心に課題分析し、出来るだけご本人が快適に過ごして頂けるよう検討しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談や他の福祉サービスをご利用されていた方は担当の相談員の方やケアマネージャーから留意点を聴取しています。また、初回面談を通じて生活歴や趣味等本人から聴取し、スタッフに落とし込み情報の共有を図っています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常の業務や申し送りや記録等で状況の把握を行い、変化がある場合にはご家族様にご報告しています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のモニタリングを行い課題分析に取り組んでいます。随時、ご家族様が面会に来た時にご相談、ご提案させて頂きケアプランに落とし込んでいます。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングを行い課題分析に取り組んでいます。また、モニタリング以外にも状況の変化に対応し現状に即したケアプランの作成を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録から本人の問題点等を抽出し、介護職員と計画作成の情報の共有を行いケアプランの見直しを行っています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	唄や踊りといったボランティアが来園された場合は、併設の小規模多機能ステーションのご利用者と同様で楽しませたりしています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	徘徊等で施設から出てしまった場合を想定し、近隣の派出所に相談に行ってます。また、消防訓練等でも消防署との連携が必要になって来るため、連携を図りながら支援しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医療面でのサポートが必要になった場合は、往診医と連携し外部との連携を調整しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状、当事業所と地域包括支援センターとの協働といった部分では機能していません。	○	現状、予防プラン作成がないので、困難事例等が出てきた場合は、地域包括支援センターに相談を行いたいと考えています。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診をとっている形で当事業所の看護師を通じて医師に相談しています。また、状態が悪くなった場合にはご家族交え往診の立会いをお願いしております。また、医師からご家族様へ連絡や医療連携を図る上で紹介状を書いて頂き支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	弊社のマニュアルを通じて、声かけ等のマナーの部分説明している。施錠できる場所に個人情報の書類を保管しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	スタッフには傾聴を心がけるよう徹底し、ニーズの把握を行っています。また、役割を持てるように側面からのサポートを行っています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランの日課計画に沿った形で日々業務を行っていますが、例えば突然の買物等の要望があった際には、間接要員で補う形をとっています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	今のところ、理・美容については、当事業所内に来て頂いてカットやパーマを行っています。本人の意向に合わせた形で床屋にお願いしています。	○ ご本人様やご家族様の意見を聴取し、なじみの店がありその店に行きたいとの要望がある場合には、柔軟に対応していきたいと思います。現状は特段そういった要望はありません。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一時期のノロウィルスの注意文章が厚労省通知が出た際は、食事作りを職員と入居者で行う事は差し控えていましたが、食器を片付ける、盛り付けるといった作業は職員と入居者で行っています。	○ 1人1人の能力に応じて、今後は食事作りにも積極的に参加して頂けるよう配慮していきたいと思います。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買物等で本人の買いたい物を買っています。日常会話の中や新聞のチラシを見ながら「これ食べたいね…」と言ったものについては、参考にしながらメニューに入れて対応しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	現状、尿意や便意を訴えが出来る方が大半なので都度声かけや本人の訴えに合わせて快適な排泄が出来るよう支援しています。また、下肢の筋力低下等でトイレに行くのが困難気味になった場合はPTイレの導入を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居前後に本人のニーズを聞いて対応しています。入浴を好まない方も最低週2回以上の入浴を行うようアナウンスして、声かけや誘導し入浴をして頂いています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転傾向にある方はスタッフで連携し夜休んで頂くよう日中の活動を多くしてます。概ね、ご自宅にいた時の習慣の就寝時間で休まれている方が大半です。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	会話やカラオケ、ホーム内喫茶等、個別・集団の余暇活動を行ったり、日々の食事の買物をお手伝いして頂いたりして極力ストレスを溜めないよう工夫しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状は、金銭紛失の訴えが認知症の特性上見られるので、入居日にご家族様に諸事情をお話し、金銭を持参しないようお願いしています。	○	認知症の特性上、金銭の管理は本人ではなく主管を管理者としています。買物の要望があった際には、買物の同行スタッフに渡し、買物をしています。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩のニーズが多いので外気浴や動物や園児に触れ合ったりしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出の要望がある場合には都度ご家族様に連絡し、日程調整を行って頂き外出や外泊を依頼しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のニーズに応じ、電話連絡や面会に来て頂いたりしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	比較的ご入居者様のご家族様や知人の方の面会が多いので、ゆっくりして頂けるように場所の提供をしています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	対象となる入居者がいない為身体拘束は行っていません。	○	拠点会議の勉強会を通じて、9月に実施する予定です。(年間の研修計画)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険回避の為、自動ドアも暗証番号付きのカギを閉めて対応しています。	○	見守りの強化を行い今後は、開放していく方向で調整しております。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は定期的な巡回を行い、また日中も食堂のスペースにてだんらんの場としてスタッフが見守りを行い安全に配慮することを心がけています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居前に持参品のチェックを行っています。刃物や爪きりニッパー等は事務所保管し、入居者各々のレベルを考慮し、使用する際はスタッフが見守る形式をとっています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	拠点会議にて防災訓練の実施や防火設備などの説明を行っています。特に夜勤に携わるスタッフは入社時のオリエンテーション時に説明を行っています。	○	拠点会議の勉強会を通じ、定期的に緊急時の対応は行っていきたいと考えています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを通じて急変者の連絡方法や拠点会議の勉強会にて看護師より入居者個々の急変時のポイントや対応をご指導頂いています。	○	帳票等まだ完全ではない部分もある為、作成に着手しています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	拠点会議にて避難方法や火災避難用の用具を説明を行いました。外部業者からの火災器具の点検を行っています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況の変化に応じ、カンファレンスを実施しています。また、レベルの低下によるリスクについてもご報告しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	適時観察(毎日のバイタル測定)を行い、異変があった際には当事業所の看護師やご家族様、往診の病院の看護師や医師に相談し対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時薬の変更があった際には、都度ノートに記載しています。また、入居者個人ファイルに薬情報をファイリングしてあるので、スタッフが閲覧できるようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	短時間の体操を毎日行っています。根菜のメニューも入れ極力薬に頼らないように心がけています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後にご自身で口腔ケアが出来ない方は口腔ケアを行っています。訪問歯科医と連携し、初回無料検診を行い歯垢等の汚れがあった場合アドバイスを受けています。また、治療が必要な場合は都度ご家族様の了解を得て対応しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全入居者の方の食事・水分摂取量の表を作成してチェックしています。また、水分補給も季節やその方に応じた水分の提供し、脱水症状にならないように工夫しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルや国や自治体からの文章を用いて全スタッフに啓蒙しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等の消毒は毎日行っています。また、食材の保管についても購入時に賞味期限の記載や日々のチェックにて安全なものを提供するように心がけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	インターフォンが鳴るとモニターに表示されるので、不審者の確認が出来るようにしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の余暇活動にて季節感の出るものを装飾したり工作したりしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人でソファでくつろいだり、ユニット内だけではなくユニットが違う方で気の合う方同士談話出来るように工夫して対応しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみのものを持参して頂くよう工夫しています。入居後レベルが下がった場合には福祉用具導入の提案を行っています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節はその都度入居者に確認し調整を行っています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの個室の空間があり、また廊下やトイレ手すりが設置してあり歩行困難な方でも対応出来るよう工夫してます。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者個々のレベルに応じ出来る能力を生かせるような働きかけを行っています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外気浴を兼ねベランダに出て小動物鑑賞を行っています。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

拠点(=職員)会議を使ってスタッフ間の勉強会を設けています。勉強会を通じてスタッフのスキルアップに努め、現在進行形ですが着実にレベルアップしています。